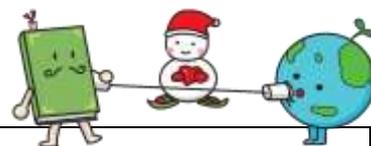


# 学習課題(小学校5年生)

## 【国語】



### 〈学習内容〉

◆「あなたは、どう考える（教科書 174～179 ページ）」を学習します。

- (1) 174～179 ページを読み、学習の進め方について確認しましょう。
- (2) 179 ページ「たいせつ」に書いているように、説得力のある意見文を書くときには、大切なことがあります。

**A…実際にあったことや、それらの記録と、自分の考えを区別して書く。**  
**B…ことなる立場からの反論を想定し、それに対する考えを入れて書く。**

まずは、**A**に取り組みます。178～179 ページの意見文を参考にして、もう一度 175 ページを読み、自分の関心のあることから題材を決め、主張・理由・根拠をノートや取組シートに書きましょう。

### 参考例

**題材：**レジ袋をもらわない方がいいか。

**主張：**エコバッグを持ち歩くといい。

**理由：**環境にいいから。

**根拠：**レジ袋のプラスチックごみによって海洋おせんが進む。



175 ページの「題材の例」を参考にしたり、身の回りの出来事から題材を考えたりしてもいいですね。

- (3) 次は**B**に取り組みます。176 ページの回を読んで、他の立場から主張を見直し、よいところや予想される反論を見付けましょう。  
 ※お家の人などに聞いて、別の立場からの意見をもらうこともいいですね。
- (4) (2) (3) で考えたことを生かし、176～179 ページを参考に「初め」、「中」、「終わり」の段落には、どんな内容をどの順で書くとよいか文章の構成を決め、説得力のある意見文をノートや取組シートに書きましょう。

終わり	中		初め	参考例
まとめ・主張	予想される反論・対する考え	理由と根拠	主張	
未来のために、レジ袋をもらわないで、エコバッグを使う方がいい。	もしかしたら、レジ袋を分別して燃やすといいと考えるかもしれない。しかし、レジ袋を処理するには、二酸化炭素がでて、地球温暖化が進むことにつながってしまう。	前にテレビで、レジ袋をえさと間違えて食べてしまうかめを見た。さらに、レジ袋は、び生物に分解されることなく残ってしまうという。	わたしは、レジ袋をもらわないで、エコバッグを持ち歩くといいと考える。	

- (5) 書いた文章を読み返して、事実と意見が区別できているか、分かりにくい言葉や表現はないかなどを確かめ、おうちの人などに読んで感想をもらいましょう。

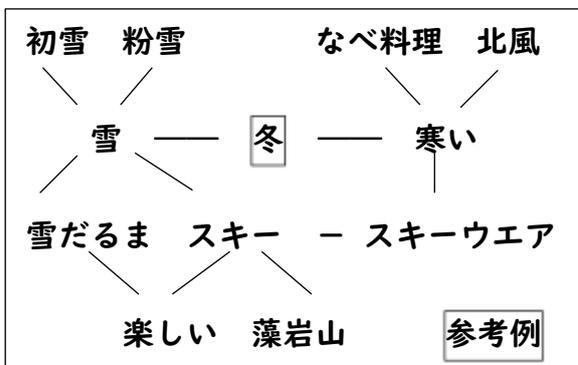
◆「冬の朝（教科書180～181ページ）」を学習します。

(1) 180ページの「枕草子」の古文を音読し、文章の内容や言葉の響き、リズムを味わいましょう。そして、現代語訳と読み比べて、表現や言葉の意味が同じところを探しましょう。

(2) 冬らしいものや様子で、どんなところが好きですか。それを基に冬に関係のある言葉をつないだり、広げたりして、ノートや取組シートに書きましょう。



248ページの「考えをつなぐ、広げる」を参考にするのもいいですね。



(3) 181ページの冬に関わる言葉や(2)で考えた言葉を使い、俳句などをノートや取組シートに書きましょう。

古語（昔使われて、今では使われなくなった言葉）を使ってみるのもいいですね。

名前  
しんしんと  
降る雪踏むは  
いとおかし

◆「生活の中で詩を楽しもう（教科書182～183ページ）」を学習します。

(1) 182～183ページにある詩を繰り返し音読して、好きなところや気付いたことをノートや取組シートに書きましょう。

(2) 182～183ページにある詩の中からお気に入りの詩を選び、自分なりに工夫して（声の大きさやよくよう、速さや間の取り方など）繰り返し音読しましょう。

(3) これまでに読んだことのある詩や詩集などからお気に入りの詩を選び、音読をしたり、写したりするなど、楽しみ方を考えて取り組みましょう。

◆新出漢字「慣」～「型」をノートや取組シートに練習します。

（読み方や筆順などは、教科書291ページにのっています。）

＜保護者による関わり方のポイント＞※可能な範囲でお願いします。

- ・「あなたは、どう考える」では、説得力のある意見文を書くために、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが大切になります。その際、他の立場や他者からの考えや評価が必要になりますので、声をかけてあげてください。
- ・「冬の朝」は、5年生で季節の言葉を扱う最後の学習になります。春から秋までの学習を振り返ったり、冬を感じる体験や思い出を話したりするなど効果的です。
- ・「生活の中で詩を楽しもう」では、詩に親しみ、生活の中で詩を楽しむ方法を考えることが大切になります。年賀状に書いたり、色紙などに書いたものを飾ったりするなどして、生活の中でも楽しみながら詩に触れる経験をさせてあげてください。